

No.	感染症(PT)	出典	概要
95	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6)1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
96	ペスト	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	ペストー中国(チベット自治区) ・情報源: XinhuaNet.com, 6月25日。 中国南西部チベット自治区Xigaze県Zhongba郡におけるペストは制圧されたと、チベット保健局報告を引用して中国保健省が報じた。この流行でこれまでに5名が感染したと現地保健省当局者が2005年6月25日述べた。患者は6月13日から18日にかけて発生しており、うち2名が死亡した。 < http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm >
97	BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイピーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性がある」と発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。
98	BSE	FDA News	米FDA, BSEに関する調査の結果を報告 米農務省(USDA)の動植物衛生検査部(APHIS)およびFDAは、2005年6月に牛海綿状脳症(BSE)に検査陽性となったウシに関する調査を完了した。本症例はテキサスの牧場で生まれ育ち、死亡当時は約12才で、1997年の飼料禁止令の実施以前に生まれていた。2004年11月に家畜販売業者を介して販売され、食品加工工場に輸送されたが、到着時に死亡しており、その後BSE検査が行われたペットフード工場に輸送され、使用されずに2004年11月に死骸が処分された。
99	BSE	The Veterinary Record 2005;157:206	フランスでのヤギのBSE確認が、小反芻動物が飼料を介した経時的な曝露によりBSEを維持するのかという議論をヨーロッパで活発化させている。実験的なヒツジの群れの間でのBSE汚染飼料摂取によるBSE垂直感染が確認された。
100	BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性のあるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性があるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると
101	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性とみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
102	BSE	USDA/050429	2005年4月、米国USDA及びAPHISチームはカナダにおいてBSE症例の疫学調査の徹底的な見直しを行い、共通の原因をしてBSE汚染飼料を消費したことによるかもしれないと報告。
103	BSE	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
104	BSE	USDA 2005年8月	2005年8月、米国農務省による米国における2例目のBSE例に関する調査報告。本調査では、このウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置前の数年前に産まれており感染ウシの産生牧場のウシで生存が確認されたのは2頭のみであり2頭ともBSEの可能性はないことが確認された。
105	BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
106	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。
107	BSE	ProMed20050629-0020(OIEウェブサイト6月29日)	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェブリン 獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。
108	BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェブリンの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
109	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
110	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
111	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Viological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウエスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイム/PCR法(IPCR)の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
112	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。
113	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department of Health ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。
114	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討したもの。
115	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。
116	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちに中枢神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することはないと予想される。
117	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。
118	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(24)	2005年7月のIrishNewsによるとアイルランドのダブリン病院においてvCJD治療を受けている患者が輸血を行っており2名が献血を受けていることについて、1名はvCJDと関係ない症状で死亡しており、1名は無症状であると報道。アイルランド保健省は報道後の再保障を試みている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
119	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
120	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005;15(29)	英国保健省はvCJDのリスクが増加していることが確認された新たな集団について2005年7月20日に公式発表。この集団は後にvCJDを発症した患者に対して以前に輸血された血液のドナーである。現時点で3件のvCJD症例に対して約100ドナーが関係している。さらに2名の受血者について観察がされている。1名はvCJDと関係のない症状で死亡しており、もう1名は無症状であるが輸血による感染を否定できない。
121	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をin vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
122	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
123	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(6)	2005年6月、ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。
124	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
125	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of General Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP ^{Sc} の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP ^{Sc} 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP ^{Sc} が認められた。
126	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウイスタンプロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
127	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(9):5259-71	完全なウシプリオン蛋白(BoPrP)を表現するトランスジェニックマウス(Tg)は伝播のバリアーなしにBSEプリオンを連続的に遺伝させる。Tgマウスはヒツジスクレーピープリオンにも伝播のバリアーを示さない。このことは、ウシがある種のヒツジスクレーピーのプリオンタンパクに高い感受性があることを示唆している。種間のプリオン伝播に観察される種間バリアーの大部分は、株間バリアーであると考えられる。Prpの配列の相違が、異なる種のプリオンの伝播を必ず防御するわけではない。
128	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(21):13794-6	慢性消耗病感染ミュール鹿の脳組織を接種したリスザルにCWDが感染した報告。
129	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP ^{Sc} サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。

No	感染症(PT)	出典	概要
130	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイパー・ハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
131	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(suppl1);A100	サウジアラビアで初のvCJD患者の報告。患者は牛肉を食べ、海外渡航歴として1995年フランス2週間、98年米国1年間UKに4日間滞在がある。遺伝子分析によりPRNPのCodon129はmethionineホモ体であった。
132	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第Ⅷ因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
133	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International (UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でvCJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中樞神経変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
134	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters News 2005 年7月29日	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
135	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
136	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
137	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	TRENDS in Cell Biology 2005 Feb;15(2)	PrPcがPrPscに変化する可能性のある細胞部位についての研究。小胞体はプリオン病の遺伝子における変異型PrPへの転換において主要な役割があるが、原型質膜へのPrPcの輸送とそれに続く吸収がプリオン病の感染型におけるPrPcの転換に要求されていると考えられる。さらに、PrPcとPrPscが関与している膜領域もまた、変換のプロセスに重要であると考えられる。
138	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Statement June 29,2005	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
139	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
140	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとトウアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
142	マラリア	ProMed20051015- 0070(Eurosurveillance 10月13日)	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
143	野兎病	mvgazette.com2005 年7月8日	2005年米国当局より、汚染された兎の吸入による野兎病感染と考えられる症例が報告された。2000年夏から流行した野兎病確定診断された30名のうち7名を除く全員が肺炎型であった。
144	リケッチア症	第57回日本衛生動物 学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
145	リケッチア症	第57回日本衛生動物 学会56S57B05	2004年8月に徳島県で日本紅斑熱患者の飼犬からリケッチア感染が確認された。
146	リンパ性脈絡 髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
147	リンパ性脈絡 髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器が移植された場合には重篤な症例になることが示唆された。
148	流行性耳下 腺炎	Infection Diseases Weekly Report Japan2005年第30週	流行性耳下腺炎が2005年第30週までの小児科定点からの累積報告数は103,692例であり昨年同時期の62,742例を大きく上回っている。また本年15週以降は常に過去5年間の同週の平均値を上回っている。本疾患が過去10年間に於いて4年周期で流行するのと同じく、2005年が流行年予測されている。本疾患の流行に伴ってムプスウイルスによる無菌性髄膜炎の報告も増加しつつあり、今後の本疾患の報告推移には十分な注意が必要である。
149	レンサ球菌感 染	BBC News 2005年7月27日	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
150	レンサ球菌感 染	ProMed20050726- 2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
151	レンサ球菌感 染	ProMed20050826- 0020(ALL Headline News8月23日 Agia News8月24日)	香港政府は今回のブタレンサ球菌による被害が最も深刻な中国四川省からの豚肉輸入再開を宣言した。7月末に禁止してからの再開。衛生当局は四川省での致死的な感染流行は制圧されたと発言している。また、香港での感染した患者から分離した菌の遺伝子解析の結果それぞれ異なる株であると発表している。
152	ロタウイルス	第52回日本ウイルス学 会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
153	感染	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
154	感染	CDC/MMWR 2005;54(11):269-72	2005年1月26日CDCはミズーリ州の癌治療クリニックの患者におけるPseudomonas Fluorescens血症4例の報告を受けた。2月15日現在4州でハバリン生食洗浄による36例のシュードモナス感染を確認している。
155	感染	China View 2005年8月23日	現地の新聞Labor紙より、ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡と報道された。省の獣医学局は原因を調査中。
156	感染	Microbiol 2005;43:2009-11	免疫抑制された小児の肺膿瘍から腐敗担子菌Irpex lacteusが分離された。ヒへの伝染は知られていない。
157	感染	newindpress 2005年 5月25日	2005年5月、インドTiruchy市近郊の孤児院で66名の小児が感染した新しいタイプの発熱性疾患について。当初の検査結果ではマリアが疑われたが否定され、バベシア症などの人畜共通感染症が疑われ検査が実施中である。
158	感染	ProMed20050625-006(Taiwan News)	保健省疾病予防センターは2000年以降初のコレラ国内感染患者を確定。
159	感染	ProMed20050625-0090(Mi punto Noticias 6月24日)	2005年6月23日、グアテマラ当局は首都西部とマシコ国境の原住民集団でウイルス感染によりこれまでに小児5名が死亡と報告。このウイルスは脳炎やウイルス性髄膜炎を来たすと考えられるが現時点ではウイルスの同定や感染経路は不明。感染後48時間以内に死亡。
160	感染	ProMed20050825-0050	ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡した。
161	感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
162	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 更新2005年 コレラ-中国(福建省)(情報源: XinhuaNet.com) 中国東部の福建省で2005年8月からコレラ患者が172名発見された。これはここ数年で最も多い。福州で2005年8月12日に最初のコレラ患者やG発見されてからこれまでに一人の死亡も出ていない。現在までに83名の患者が快復し、病院から退院した。他の患者の容態は安定している。多くの患者が道端の小さな店でシーフードを食べたと言っている。保健衛生学予防局による初期の調査では、流行はシーフード特に貝によって引き起こされた。
163	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ更新2005年 香港←インドネシア(情報源: News.gov.hk), WHO報告(情報源: WHO Epidemiological Record, 19 Aug 2005 2005)コレラの輸入患者が確認された。香港で4例目の輸入患者を確認した。この患者はインドネシアで発病し、香港に8月5日に到着した。この患者の状態は安定しており、Princess Margaret病院に入院した。4例のうち、1例は国内感染で、2例は輸入例で、1例は分類保留である。(2005年8月20日掲載)
164	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ-中国(浙江省)(情報源: XinhuaNet.com, 10月9日)2005年8月25日に最初の患者が発見されて以来、2005年10月8日現在、158人のコレラ患者が浙江省東部の嘉興(かこう)(チアシン)市から報告された。死亡患者は報告されていない。72人が現在も入院治療している。同市では水との関連があり、腸管感染症流行がみられやすい地域である。保健当局は、感染源は汚染された水と食物であり、市民は個人的衛生手段に注意を払う必要があると述べている。
165	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	原因不明の疾患, スイミングプール-中国(内モンゴル): 情報提供依頼 2005年7月末以来、内モンゴルの省都のHohhotの公衆プールを使用した400人以上の小児が発病した。Hohhotのプールは閉鎖されたが、73名の患者は現在も入院している。一部の患者は皮膚の発疹と発熱を呈している。中国衛生部は、国内全土の衛生署に対し、スイミングプールの監視の強化を通知した。 < http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK204943.htm > (2005年8月20日掲載)

No.	感染症(PT)	出典	概要
166	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳 しい情報)	原因不明の大量死—中国(四川省):情報提供の依頼 ・情報源:新華社通信Xinhua Net, 7月23日。 中国南西部四川省で過去4週間以内に現地住民20名が原因不明の疾患に感染し,うち9名が死亡したと州保健局が2005年7月23日確認した。2005年6月24日から7月21日までの間に資陽Ziyang市の3つの病院では同様の症状を呈した患者20名が入院した。7月21日までに患者9名が死亡したが,1名は快復し退院した。さらに10名の患者が治療を受けており,うち6名は重症であると,省保健局は明らかにした。
167	感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ,下痢症,赤痢 2005年更新 中国(情報源:XinHuaNet.com)中国衛生部の8月10日の発表によると,2005年7月の中国全土での感染症患者発生は27疾患390,418人であった。 香港(情報源:News.gov.hk)(WHOコレラ患者報告 8/5-11(情報源:WHO Epidemiological Record, 12 Aug 2005 2005) Centr for Heal
168	感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年6月20日	2005年6月、トルコのある病院の新生児集中治療室(NICU)収容患者の約半数にあたる未熟児7名が原因不明の細菌感染のために死亡、9名が重篤。
169	感染	Thanh Nien News 2005年4月1日	2005年4月、ベトナム当局は原因不明の疾患(足と腕の麻痺)のため2名死亡し120名が発病した原因を調査している。現在までに中毒が疑われている。
170	感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
171	感染	新華社通信 2005年6 月17日	2005年6月、ネパール当局はネパール西部の異なる2地区で下痢、呼吸器感染を原因不明の疾患により少なくとも33名が死亡し、周辺地区にも感染が拡大していると報告。
172	炭疽	ProMed20050605- 0060(Gazeta Ru information 5月30日)	2005年5月、ロシアのRostov地域ロシア連邦緊急事態省によるとRostov地区で豚炭疽症例が発生し、92名が予防接種を受けた。
173	炭疽	ProMed20050709- 0120 ProMed20050710- 0010 ProMed20050724- 0010 ProMed20050730-	米国における炭疽病のアウトブレイクに関する情報。(テキサス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)
174	炭疽	ProMed20050729- 0070(BrandonSun online) ProMed20050812- 0110((Manitoba Agriculture)	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
175	炭疽	ProMed20050902- 0050(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所の解析により同定された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
176	炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患畜が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。 (2005年7月9日掲載)
177	炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ヒト患者—中国(遼寧省) 情報源:Reuters 中国北東部で最近数週間発生している炭疽事例で, 1名が死亡し, 12名が感染したと国営メディ アが8月7日に報じた。炭疽は2005年7月29日に遼寧省瀋陽市の郊外で発生したと新華社通信が ウェブサイト上で報じた。8月5日時点でDamintun町では, 新規患者は過去5日間報告されておら ず, 現地住民の生活も正常に戻った。患者11名は病院で治療を受け, 快復していると伝えられ た。